

in板橋

明日へのまつり

実行委員会ニユース

第5号
2010.3.7
03-3962-5942
荒馬座

板橋から元気発信！まつり大成功！

二月十四日(日)の成増アクトホールは板橋区の住民数の約千分の一の観客を収容。チケットの売れ行きが心配されたことがまるで夢のような満員御礼。熱気に包まれて開演を迎えることができました。

今回の取り組みでは参加・体験・感動「ふれあいこどもまつり」というキャッチフレーズの下で行われたので、地元・板橋の子ども達が踊る「荒馬踊り」も注目の演目の一つとなりました。荒馬踊りに参加した子ども達は練習の時から元気一杯！周囲の大人達をハラハラさせてくれましたが、練習の中でどんどん成長し、舞台では最高の踊りを見せてくれました。子ども



達の決めポーズが自信に満ち溢れ、凛々しいこと！踊る喜びが全身からほとばしっていました。そして、舞台上で踊る子ども達の姿を温かく見守ってくださった会場の皆さんの力も感動を一段と大きなものとしていました。

実行委員もみんな笑顔！

エイサーでカチャーシーを呼びかける座員。エイサーでカチャーシーを呼びかける座員。呼応して客席が一斉に両手を挙げて左右に動か



かしはじめました。その姿はあたかも秋の田にゆれる黄金色の稲穂の様にも見え、会場全体の一体感を強く感じた一場面でした。ここで登場してきたのが今回の実

行委員。「公演を観た人や関わった人が元気になる舞台を作ろう！」という実行委員長の言葉を受けてまつりを成功させるために取り組んできました。そして、



子ども達に負けまいと張り切ってきた大人達の「輝け囃子」。動きの激しい構成ゆえにハールでモタついたことなど微塵も感じさせない底力！取り組みの中での様々な苦勞を乗り越えてきた仲間達が力をあわせた演目。実行委員は皆、笑顔で弾けていました。

まつりを終えて

迫力の「八丈島太鼓」、小さな子にはちょっと怖くてドキドキする「獅子舞」、ラッセラーラッセラーの掛け声で会場と舞台が一体となる「荒馬踊り」、思わず見とれてしまう「傘踊り」、独特のリズムと愉快なおじい、お婆の登場に笑いを誘われる「沖繩の豊年踊り」、かつこよさに心奪われる「エイサー」、息をのんで見つめる「竿灯」、勇壮な前進の太鼓で公演を締めくくる「秩父屋台囃子」。今回の「明日へのまつり」が心に響いた手ごたえが、何度もお覧のお客様からも、初めてのお客様からも、送り出しの際の表情や言葉、いただいたアンケートから伝わってきました。笑顔になれる、心ほぐれた時間を作り出すお手伝いが出来たことが何より嬉しく、実行委員として関わってきてよかったです。

これからも「明日への活力」を幅広い年齢の方々と一緒に「元気を発信」できるよう、荒馬座と共に力を合わせていける実行委員会でありたいと思います。興味をもたれた方は次回の板橋の取り組みでは是非共に楽しい実行委員会を作りましょう！